



学校教育目標

響き合い、輝き合いながら、
共によりよく生きようとする子どもの育成

児童の実態
児童の願い
地域・保護者の願い
時代や社会の情勢

関係法令
学習指導要領
教育ビジョンとちぎ
下都賀地区学校教育の重点
下野市学校教育計画
二中学区小中一貫教育ビジョン

目指す児童像

健康で明るい子(たくましく)

- (低) めあてをもち意欲的に運動する子
(中) 自他の健康や安全に気を配れる子
(高) 明るい心で生活できる子

進んで学ぶ子(かしこく)

- (低) 学び方がよく身についている子
(中) 自分なりの考えをもって学ぶ子
(高) 学び合い高め合う子

心の豊かな子(なかよく)

- (低) ルールやマナーを守って生活できる子
(中) だれとでも仲良くし親切ができる子
(高) 進んで社会や人のために働く子

目指す学校像

- ・明るく、活力のある学校
- ・学び合い、楽しく居がいのある学校
- ・一人一人が目標に向かって精一杯頑張る学校
- ・保護者・地域と連携し、信頼される学校

教職員の基本姿勢

- ・教育に対する情熱を持ち、子どもと共感できる教職員
- ・自己を磨き、人と高め合える教職員
- ・変化に対応できる課題解決能力を持つ教職員
- ・心身ともに健康で、子ども・保護者・地域から信頼される教職員

学校経営の方針

学校は、学ぶことの喜びを味わう場であり、児童が集団生活を通して人間関係を培いながら育ち合う場でもある。全職員で全児童を育てるという共通認識をもち、安心・安全な人的・物的環境を整える。また、互いに切磋琢磨しながら、自らの資質・能力の向上に努めると共に「挨拶」「安全」「つながり」に重点をおいて学校経営にあたる。児童の実態から、学力向上だけでなく「チャレンジ」精神により体力や自己肯定感の向上、ふるさと下野市への愛着を深める活動にも力を入れる。

- (1) 「はしって とんで ねて 食べて 元気いっぱい んごんの子」を合い言葉に、体育部・保健部・食育部が連携し、健康的な生活習慣の確立を図る。
- (2) 指導方法の工夫・改善に努め、児童が、分からないと言えて「分かる喜び、学び合う楽しさ」を味わい、確かな学力と、生涯に渡って学び続けようとする態度を育む。
- (3) 児童一人一人の人権が尊重され、互いに認め合い助け合いながら、それぞれの個性や能力が発揮できる「安心感と自信をもって学べる学校づくり」を全教職員で進める。
- (4) 児童に、ふるさとを愛し、自分の身近な人々や社会のために働こうとする態度を養わせ、家庭や地域との連携を深め、地域と共にある学校づくりに努める。
- (5) 教職員一人一人が自らの力を発揮し、信頼し合い、認め合い、同僚性の高い職場環境をつくる。

スローガン

笑顔あふれる学校『挨拶・安全・つながり・チャレンジ』

努力点及び主な具体策 ○重点

(1) 自らの健康を考え、実践できる力を育む健康教育の充実	(2) 学ぶ力を育む学習指導の推進	(3) 自己肯定感を高め、誰もが楽しく居心地のよい学級づくりと心や社会性を育む教育の充実
ア 健康上の課題を明確にし、家庭と連携しながら望ましい生活習慣の確立に努める。 ・保健指導の充実及び健康教育の推進 ・食育の充実による望ましい食習慣の形成とアレルギー対応の徹底 ・立腰指導推進と早寝早起き朝ご飯の意識付け イ 児童がめあてをもって意欲的、継続的に体力づくりに取り組むことができるようにする。 ・めあてが明確で、楽しく運動量のある体育の授業の工夫 ・体育的行事、業間体育等を活用した意欲・態度の向上 ・外遊びの奨励 ウ 全職員による危機管理体制の確立と安全管理の徹底・新型コロナウイルス等感染症拡大防止対策の徹底を図る。 ・安全指導の徹底による危機回避能力の育成 (歩き方・横断の仕方) ・家庭・地域等と連携した児童の安全確保	ア 「主体的・対話的で、深い学び」を実現する授業の充実・改善を図り思考力・判断力・表現力を高める。 ・試行錯誤のある授業の展開 ・個別最適な学習から協働学習へ ・言語活動の充実 ・教師のコーディネート力の向上 ・コミュニケーションのよさを実感できる指導の工夫(学校課題) ・指導と評価の一体を図った授業 ① 基礎的基本的な学習内容の定着と発展的な学習内容の提示を図る。 ・学習内容の系統性を意識した指導 ・個に応じた指導・教材の工夫 ウ 「学び方」の学習を通して自己解決能力を高める。 ・学習規律や基本的な学び方の共通指導 ・ICT機器活用と情報モラル指導 ・家庭学習の充実と自主学習による学習習慣の育成 エ 体験学習、外部講師から学ぶ活動を重視し、感性や好奇心・探究心等を育む。 ② 自主的・自立的な読書活動の推進を図る。 ・家読、朝読、下野市新聞の日、親子新聞の日を活用 カ 各種学力テスト等の検証改善サイクルの運用により学力向上を図る。	ア 信頼関係を基盤とした、安心感のもてる学級経営を行う。 ・担任と児童、児童同士、担任と保護者との信頼関係の構築 ① 学業指導を通して、規範意識や帰属意識、学習意欲の高い学級をつくる。 ウ 多様性を認め合い、仲間意識や自己有用感が高まる場、人間関係を構築するための場を意図的・計画的に設定する。 ・認め合う場、学び合う場を意図的・計画的に設定 ・共遊の工夫やソーシャルスキルトレーニング等の実施 ・学級活動や当番活動等の充実 ・学級力アンケートの実施とアクションプランの設定 エ 道徳科を核とした心の教育の充実に努め、道徳的な判断力、心情、実践意欲の高揚を図る。 ・考え、議論する道徳の実践と評価の工夫 ・道徳教育全体計画の工夫と改善 (家庭、地域との連携強化・別業への位置づけ) オ 特別活動の充実を通して、主体性や協調性、責任感や社会性、人への思いやり、自治能力などを育む。 ・児童の創意が活かされる活動、自己決定の場の設定と達成感が味わえる工夫 ・縦割り班による交流と高学年のリーダー性の育成 ・キャリア教育、福祉教育、環境教育との関連 (働く喜び、責任感) ② ① ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

(5)教職員の資質能力向上	創意ある学校経営の推進	(4)地域とともにある学校の推進
ア チーム祇園として明るく風通しのよい職場環境を構築する。 イ 現職教育と自己研修の推進、学校課題の推進・充実に努める。 ウ 報告・連絡・相談の徹底とPDCAサイクルによる改善を進める。 エ サービスの厳正と危機管理意識の高揚に努める。 オ たすかるくんの有効かつ積極活用を図る。(事務管理の敏速化) カ 施設・設備の管理と有効活用及び適正な管理に努める。	・働き方改革を意識した職務の遂行(業務の改善、行事の精選、スリム化) ・学校評価の有効な活用 ・PDCA→DCAPの実践 ・児童主体の行事の実施 ・ふるさと学習の充実と実践	ア 地域の環境や人材をはじめ、地域の教育資源を生かした学習を積極的に取り入れる。 イ 保護者や地域住民とのつながりを大切し、互いに相談しやすい雰囲気と関係をつくる。 ウ 二中区小中一貫教育を推進し、共通指導と交流活動を進める。 (クリーン活動・交流授業・挨拶運動・委員会交流・音楽交流等)